

# 昔話法廷

ねらいと展開

最終話「桃太郎」裁判

## 本時のねらい

- ・被告人の桃太郎を死刑にするか、それとも死刑にはしないかについて、法廷でのやり取りを多面的・多角的に考察し、公平・公正に判断することができる。
- ・根拠を明確にして自分の意見を適切に表現するとともに、他者の意見をよく聞いて、それに対する質問や反論を述べるができる。
- ・他者との話し合いを通じて、「正義と悪」、「差別や偏見」、「SNSでの誹謗中傷」、「人が人を裁くことの意味」などについて、自分の考えを深める。

## 展開例 2時間での展開例。( )は中高の時間

### 《1時間目》

時間の目安	主な学習活動	指導上の留意点
35分	<b>1. 授業内容を確認し、番組を視聴する。</b> ※番組の長さは33分。	
	<ul style="list-style-type: none"><li>・今回の授業内容や流れを理解する。</li><li>・裁判員の1人になったつもりで、中立の立場で番組を視聴する。</li><li>・番組を視聴しながら、法廷で出された証拠や証言を「証拠検討表」にメモする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・番組視聴後に、裁判員として判決を考え、話し合うことを確認する。</li><li>・先入観を持たないよう、昔話の内容は説明しない。</li><li>・自分が知っている昔話の内容にとらわれず、番組内で描かれている証拠や証言のみに基づいて判断するよう指導する。</li><li>・「証拠検討表」を配付する。</li><li>・番組をしっかりと視聴することを優先し、メモは箇条書きで簡潔に書くよう指導する。</li></ul>
5分	<b>2. 番組の内容や裁判の争点をおさらいする。</b>	
	<ul style="list-style-type: none"><li>・番組の内容を振り返る。</li><li>・裁判の争点は、「被告人の桃太郎を死刑にするか、それとも死刑にはしないか」だということを確認する。</li><li>・情状酌量とは、「犯行に及んだ背景や動機などから同情すべき点を考慮し、刑罰を軽減すること」という意味であることを確認する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・指導用写真(番組HPよりダウンロード)を用いて、登場人物の相関図を示しながら番組の内容を説明する。その際、時間短縮を図るため、事前に黒板に掲示しておくことよい。</li><li>・裁判の争点と情状酌量の意味を簡潔に説明する。</li><li>・死刑にしない場合の量刑については、特に説明する必要はない。</li><li>・番組内で描かれていた証拠や証言のみに基づいて判断するよう、再度指導する。</li></ul>

時間の目安	主な学習活動	指導上の留意点
5分 (10分)	<b>3. 証拠や証言を検討し、自分の考えをまとめる。</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「証拠検討表」にメモした証拠や証言を吟味し、特に重要だと思うものに☆印をつける。</li> <li>・自分が考える判決と、その理由を「判決用紙(はじめの判断)」の上部に書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メモが不十分な生徒が多い場合は、「論点表」を配付し、参考にさせてもよい。</li> <li>・「判決用紙(はじめの判断)」を配付する。</li> <li>・この時点では、「決められない」という意見も可とする。また、どちらかが正解ではなく、あとで意見が変わってもよいということを確認する。</li> </ul>

≪2時間目≫

時間の目安	主な学習活動	指導上の留意点
20分 (25分)	<b>1. グループ(またはクラス全体)で話し合う。</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループに分かれ、進行役を決める。</li> <li>・次の手順で話し合いを行い、参考になった意見を「判決用紙(はじめの判断)」の下部にメモする。               <ol style="list-style-type: none"> <li>①1人ずつ、自分の考え(判決と理由)を発表する。</li> <li>②友達の意見に対して、質問や反論をする。</li> <li>③進行役の生徒は、いろんな視点を提示し、話し合いを活性化させる。その際、「論点表」を参考にしてもよい。</li> </ol> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1つのグループ内に、両方の意見の者がいるようにグループ分けを行う。クラスの状況によっては、教員が進行役になり、全体で話し合わせてもよい。</li> <li>・自分の考えを発表する際は、結論(判決)を述べてから理由を説明するよう指導する。</li> <li>・友達の意見をよく聞き、質問や反論をして自分の考えを深めるよう指導する。ただし、相手を言い負かすことが目的ではないということを理解させる。</li> <li>・どちらかが正解ではなく、話し合いの中で意見が変わってもよいということを再度確認する。</li> <li>・話し合いの様子を観察し、必要に応じて新たな視点を提示する。</li> <li>・クラスの状況によっては、グループのメンバーを入れ替え、再度話し合わせてもよい。</li> </ul>
15分	<b>2. 最終的な自分の考えをまとめ、発表する。</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いを踏まえて、最終的な自分の考えを「判決用紙(最終的な判断)」の上部に書く。</li> <li>・何名かの生徒が、自分の考えをクラス全体に向けて発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「判決用紙(最終的な判断)」を配付する。</li> <li>・はじめの判断から考えが変わった人は、その理由を書くよう指導する。変わらなかった人は、判断をする上で悩んだ点や、自分とは反対の人の意見の中で「なるほど」と思ったものを書くよう指導する。</li> </ul>
10分	<b>3. 授業内容を振り返り、自分の考えを記述する。</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の「桃太郎」裁判を通じて考えたことを「判決用紙(最終的な判断)」の下部に書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記入欄の8割以上を埋めるよう指導する。記入欄が足りない場合は、裏に書くよう指導する。</li> <li>・「1」の話し合いや、「2」の発表に時間をかけた場合は、「3」の自由記述は宿題にしてもよい。</li> </ul>